

入中1年人権だより

徳島市 八万中学校
1年生 第24号
2021年 3月23日
編集・発行 吉成正士

「シンジさんとはなちゃんの話から人権について語り合う」・前編

1・2学年合同人権学習(3月17日)

先週水曜日の学年合同人権学習。思い出深い時間になりました。記録した動画を見ている最中に、次々とみなさんの感想が届いてきたのですが、読んでいる間中ずっと胸が熱いままで、身動きがとれなくなっていました。

みんなしっかり聴き、それぞれに自分の頭で悩み、考えていたことが、感想から伝わってきました。それはお二人の話の中身もあるでしょうが、みなさん自身が、何が正しくてどう考えればいいのか、同級生や他学年と意見を意見交換したからではないのでしょうか。受け身の学習はなかなか身につけません。でも、自ら汗をかけば、それは体が覚えます。発表した人はなおさら、してなくても頭の中でしっかり汗をかけた人は、受け身の学習ではなかったのだと思います。

シンジさんとはなちゃんにも読んでもらいたいのですが、とにかくみなさんも読んでみてください。同級生がどんな思いを持ったのか。どうぞ。

■シンジさんとはなさんの話を聴いていて、とても生々しい話で少し驚きました。私の母からも部落差別の話を聴いて、とても最近のものとは信じられませんでした。私の周りには部落差別を受けている人がいないので、やはりまだ実感が湧きませんでした。

話し合いの中で、「部落差別について勉強しない方が良いのでは」という意見について話し合いましたが、私も正直とても迷いました。私自身あまりしたくないという思いが強く、その差別があった過去を認めたくないという思いもあります。勉強しない方が絶対楽だと思いません。しかし、差別されていた人、されている人、シンジさん、はなさんの気持ちを考えると、勉強しなくてはいけません。はなさんの言っていたとおり、無知はとても怖いし、正しい知識をつけることは大切だと思うので、人権学習はしないといけないと思いました。そして、差別をしている人がいたら、「違うと思う」と言える力をつけていきたいと思いました。 1組IM

どうすれば、その力はつくのか？

■お互いの思いを大切にし合えるって、素敵だなと思いました。私にはそんな親友が3人います。これからその3人を大切にしようと思いました。

勉強しなければ差別がなくなるんじゃないかという意見がありましたが、私はそうではないと思います。必ずしも、一生のうちで1回も部落差別という言葉を目にしないとは限りません。勉強しなかったら、周りの流れに乗って差別をしてしまう人が増えると思います。差別について学び、差別を目の当たりにしたときに、おかしいと自分の意見を言えるようになります。

1人に人生は1度しかありません。差別をされたまま、差別をしたまま、差別を目の当たりにしても、何も

言えないまますごした時間は戻りません。同じ人間なのに、生まれた場所が違っただけで、嫌な思いをする人が増えなければならないのかとか、悔しさとかその強い思いはきっと誰かに伝わるはずですよ。自分たちの思いを発信して、同じ気持ちを持っている人が増えればいいなと思いました。今日の集会で話してくださった方の強い思いは、きっと誰かに届いています。

1組AY

あなたにも、届きましたか？

■私は今回の話を聴いて、自分の身近なところに部落差別を受けている人がいるんだと感じました。もしかしたら自分が知らないだけで、同じ学校の人、友達の中にも差別地区の子がいるのではないかと。

でも、差別されている、されていないの問題じゃない。その人が昔からの意味のない差別に縛られて暮らしていく。それがどれだけ辛いのか、苦しいのか。それはその本人でないと分からない。分からないけど、その人の支えになることができる。その人の助けになれる。だから、差別を受けてきた人がその人のありのままにいられるように、私たちは力を合わせて差別という言葉がなくしていかなくてはならない。生き物に上や下なんてなくて、みんな同じで。みんなが自由に生きていけるように、これから差別について深く考えなければいけないなと思いました。

吉成先生の「学習するから差別はなくなるのか」という質問に対して私は、学習してもしなくても、もしかしたらなくなるのかもしれない。でも減らすことはできる。だから私は学習をこれからもずっと続けた方が良いと思います。 2組MR

なくすのは、何か？

■実際にあったことなどをたくさん話してもらい、とても勉強になりました。

差別の勉強をしなければ、差別はなくなるのではないかと、という意見があったと矢野先生から聞いたとき、はじめは「なるほど、確かにその策もあるな」と思いました。でもすぐに、勉強はするべきだと考えが変わりました。シンジさんの涙を見たからです。差別をしていた人を無視することはできないと思いました。また、子どもたちが勉強をせずに差別のことを知らないとしても、親や祖父母などは知っています。正しい知識を持っていない子どもたちは、きっとその差別を信じ、広げていくでしょう。

はなちゃんが言いました「一番怖いのは無知なことだ」と。私もそう思います。差別は決してなくなりません。でも、差別に負けないよう、違いを認め合って、新しい差別が生まれないよう、差別が減っていくように、私たちが差別された人たちの意思を受け継いでいこうと思います。 3組YM

■人権学習はした方が良いのか、しない方が部落差別

がなくなるのではないかと、という質問がありました。私はした方が良くと思います。それは、差別がなくなつたとしても、なくならなかつたとしても。

そう考える理由は、私は人権学習を深めることで、差別を0(ゼロ)にしてしまうように減らせるように考えて0(ゼロ)に最終するというのは、私は違うと思います。でも、差別がなくならなくて良いということではありません。私の意見としては、人権・差別について時間を持ち、どう行動していけるのかを考える場所・時間が必要だと思うから、なくなろうが、なくならなかつたとしても、考える必要性はすべての人に必要と思うからです。

私も差別をなくすことは恐らくできないと思います。けれど、考えることはできるから、学校で人権学習という時間を設けて、向き合った方が良くと思います。部落差別も人種差別も、すべての差別において、考える必要があると思います。

無知は怖いと言っていました。私はそう思います。知らなかつただけということで済まされていくのは良くないと思います。この今の世の中はそういうふうになっていて、謝っていれば、反省すれば、という流れがあるように思います。それは学校の中では特に多いように感じられます。だから私は、考える必要があるし、伝え合っていく必要があると思います。 4組YK

そういう「場所・時間」がなければ、どうする？

■今回の人権学習で、私は知ることが本当に大事だと思いました。あと、はなさんも言っていたけど、知って自分の考えをもつということが心に残りました。自分の考えを持っておかないと、いつも他に流されてしまい、相手を傷つけることにつながると思いました。なので人権学習をした方がいいのかということでもあったけど、勉強をして知り、それに向き合うことが大切だと思いました。

そしてシンジさんのことで、なかつたことにしたくないということで、私もちゃんとそのことから逃げないで向き合いたいと思いました。忘れたくないことだと思いました。

あと、吉成先生とはなさん、シンジさんを見ていて、私は今つながっている人を本当に大切にしたいと思いました。その方法の一つに、これから言葉というものを大切にしたいと思います。例えば先生や先輩だけではなく、近所の人にあいさつをしたり、日々の中でごめんとか、ありがとうなど、勇気があることもあるかもしれないけど、ちゃんと文字にして相手に伝えることで、互いのことを大切にしていきたいと思いました。

今日の人権集会はとても楽しかったです。これからも人権について知りたいと思いました。部落のことだけではなく、白人・黒人差別など、いろんなことについて知りたいです。そして、私は私ができる、人を大切にすることや、挨拶をすること、決めつけずに知ることなど、やれることから頑張りたいです。 5組OC

■今回の人権集会で、「結婚するのはだめ」と言われたという話を聞いて、部落出身なだけで差別されるのはおかしいと思った。他にも、部落の子と遊んではいけないとか、丙午に生まれた女性は結婚できないなどの、おかしい差別がたくさんある。そういうことに、しっかり「おかしい」と言えるようになろうと思った。

今回の話し合いでは、「人権学習は必要か」というテーマで、とても盛り上がっていた。いろんな意見が出たが、私は必要だと思う。なぜなら、勉強しなかつたら、間違った情報を信じてしまい、さらに差別がひどくなるのではないと思うからだ。また、シンジさんが言っていた、部落差別がないことになると悲しい、あることをないことにはできないということに納得した。他にも戦争と差別の学習は同じで、二度と同じ間違いを繰り返さないためにしているという意見や、河見先生が言っていた、勉強をしていけば、差別やいじめを受けている人を助けられるという意見に、なるほどと思った。私も、助けられる人になるために、学習をしていきたいと思った。

そして、吉成先生が言っていた、人権学習で人とつながることができるということが心に残っている。これからも、人とのつながりを大切に、人権学習をしていきたい。 5組KC

■今回の話を聞いて思ったことは、この部落差別を勉強しなくていいか、するべきかという話題に、みんなの意見について疑問が浮かびました。どうして勉強しない方が差別がなくなると思っているのかなと思いました。「勉強をしてもしなくても、差別がなくなるのなら、勉強しなくてもいいと思う」って言ってた人は人任せにして、自分から差別をなくそうと行動に移していない人だと思いました。

それから「勉強しなくてもいいと思う」は、シンジさんが言っていた「あることをないことにしないでほしい」という言葉を一瞬にして裏切っていると思いました。はなちゃんの言っていた通り、無知なのは本当に怖いものだと思います。だから、あることをないようにするのはなく、あることをきちんと知って、しなければいけない行動をしていくのが自分たちのするべきことだと思いました。 6組NY

■今日、「シンジさんとはなちゃん」の話を聞き、1・2年生で全体学習して、今まで差別について道徳・総合の時間に学んできたことが、「本当にそんなひどいことをする人がいるのか？」と疑問に思うところがあったけど、実際に部落出身の人が、今まで生きてきた中で悲しかったこと、逆に嬉しかったことを聞き、現在もまだ差別で苦しんでいる人が必ずどこかにはいるんだなあと思いました。

また、「差別についての学習をしなければ、差別はなくなるのではないかと」という質問では、たくさんの方が様々な意見を出していて、とても良かったと思いました。そして僕の意見は、きちんと学習して、正しい知識を得て、親世代やもっと古い世代の人たちが差別のことを自分に言ってきたら、正しいことを教えてあげたら、自然と差別はなくなるのではないかと思いました。今日は貴重なお時間をいただきありがとうございました。 6組KS

言ってくるのは親や祖父母世代とは限りません。現に今回みなさんが、「知るからなくなるのか？」と議論したのは、そういう意見があったからです。「知らせるからなくなるのか？」という意見に出くわすことは、これからもあるかもしれません。そのときに、どうするかです。 続きは「25号・後編」へGO!